

江北の四季

令和2年
10月17日
第29号



10月14日5時



10月12日4時



10月6日22時



10月2日20時



10月13日5時



10月11日2時



10月5日22時



10月15日5時

○秋は月。

十月一日の満月の月の出は「1時45分」でした。その後、月は地球の周りを東へ東へと約二十九日で一周しているの、月の出は、 $(60 \times 24) \div 29 \approx 50$ 分ずつ遅くなっていきました。十月十日の下弦の月は「3時10分」、十六日は「4時5分」が月の出で月隠（つきごもり）となりました。雨や曇りの日もあり、満月以降のすべての月を見ることはできませんでしたが、いくつかの有明の月を生まれて始めて見ました。夕方見るお月様とは別の風情がありますね。十七日は朔で、旧暦九月一日です。九月の古名は長月（ながつき）。夜長月（よながつき）からきているようです。十八日からは夕方、西の空に細い月がまた見え始めます。



ヒオウギ(檜扇)の実

○第五十一候、寒露、末候、蟋蟀在戸（きりぎりすとにあり）。こおろぎが野原だけでなく戸の辺りでも鳴き始める頃。
七十二候では「蟋蟀」を「きりぎりす」と読んでいますが、一般に「蟋蟀」は「きりぎりす」とも「こおろぎ」とも読むそうです。きりぎりすは夏の虫で、この時期に家の軒下で鳴くのはこおろぎですね。平安時代はこおろぎのことをきりぎりすと呼んでいたようです。夜、こおろぎの音が聞こえ出すと、秋も深まったなあと思います。と同時に、季節や虫たちの盛りが過ぎ去ることへの寂しさを感じます。冬も間近ですね。



ケイトウ(鶏頭)

♪

あれ松蟲が鳴いてゐる。

ちんちろちんちろ ちんちろりん。

あれ鈴蟲も鳴き出した。

りんりんりんりん りいんりん。

あきの夜長を鳴き通す

あゝおもしろい蟲のこゑ。

きりきりきりきり きりきりす。

がちやがちやがちやがちや くつわ蟲。

あとから馬おひおひついて

ちよんちよんちよんちよん すいつちよん。

秋の夜長を鳴き通す

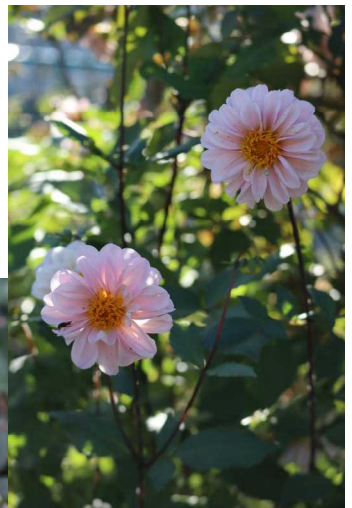
あゝおもしろい蟲のこゑ。

♪

文部省唱歌 『蟲のこゑ』

もちろん二番の「きりぎりす」はこおろぎのことです。今日では「きりぎりす」の歌詞を「こおろぎや」に差し替えて歌っているようです。

☆ダリアの花、花。



朝夕の冷え込みも深まり、ダリアも花色が一層深くなりました。ダリアは夏の暑い時期から今日まで咲き続けています。しかも、耐寒性の多年草で、地下部が塊根になり、株分けも容易です。ものぐさガーデンには嬉しい花です。



ローズマリー

☆ローズマリーの花が咲き出しました。ローズマリーは、ハーブの一種で爽やかな香りが特徴です。丈夫で育てやすい常緑低木です。十月・五月頃まで茎の先に小さな花を咲かせます。



園芸店では多くの種類のホトトギスが売られています。かわいくて手頃な値段なのでつい買ってしまいます。いつとき、我が家でも次々といろんなホトトギスを植えて楽しんでいましたが、そのうち約半数は絶えてしまいました。やはり残るのは昔からの品種で、珍しいものはだめですね。写真はいまだに元気で咲いてくれているものです。

○ホトトギス。



ホトトギスの群生



ホトトギスは節が多く、くねくねしています。四苦八苦で苦労して生けても、満足のいく形にはならない。無念、討ち死にです。



ホトギスの二重生



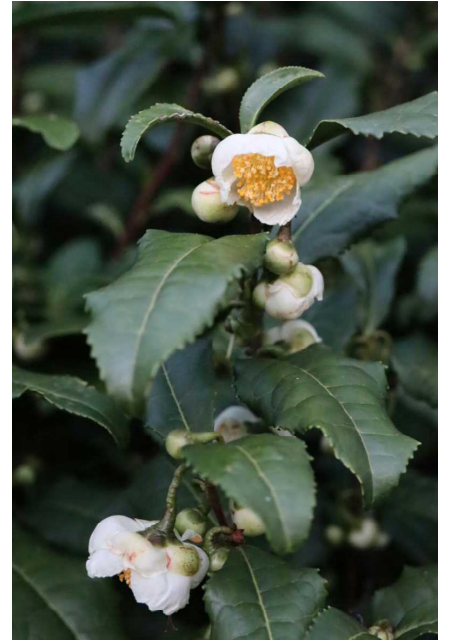
ホトトギスの一種生



☆チャ(茶)

お茶の木が白い花を付け出しました。しだいに寒くなるこの季節に、このかわいい花は心をなぐさめてくれます。先週も生けましたが、今週は二杯も生けてしまいました。茶の花は下を向いて咲き、白い花弁の中に明るい黄色のおしべがたくさんあります。

昔の農家は多くの家が茶畑を持っていました。あるいは垣根兼用で植えていました。我が家も両親が健在の頃は、五月頃、いわゆる八十八夜前後になると茶摘みをして、自家製の番茶をつくっていました。新芽を収穫したらすぐに蒸して、火で乾かし、揉んで、また乾かしと大変な手間でした。その日は新茶の香りが家中に充満し、初夏の香りを胸いっぱい吸っていました。残念ながらおいしいお茶にはほど遠い代物でしたので、しばらくしてやめてしまいました。なお、茶道では十一月



の「炉開き」にその年の新茶を抹茶にしているただくそうです。



茶の一種生



茶を月に生ける

秋は月、月に映えるお茶の花。で、右のようになりました。ホトトギスよりはましですが、茶の木は小さくても年季が入っているの、表面がゴツゴツしています。やっぱり四苦八苦です。

☆数は少ないですが、薔薇が今年最後の花を咲かせてくれています。



